

7.21 豪雨災害から学ぶ今後の防災対策

いのち 生命にかかわる防災・減災への取り組み

7.21 豪雨により災害時要援護者を含む多くの市民が犠牲となった

1. 検証 【防府市豪雨災害検証委員会】

- 初動体制 - 気象情報発表時の人員配置、災害対策本部における施設整備、現地被災情報の早期確認、災害対策本部内の情報共有、関係機関との専用回線の確保、報道対応体制の確立
- 避難勧告 - 防災情報・気象情報の活用、避難情報の発令基準の明確化、要援護者施設に対する避難情報の伝達、避難情報発令区域の明確化
- 情報の収集・伝達 - 本庁における防災機器の整備、職員に対する防災教育の見直し、防災対応体制の改編
情報収集・整理担当の配置、市民へ情報伝達手段の整備、同報系防災行政無線
- 避難所運営 - 避難所統括担当の配置、避難所施設の整備
- ボランティアの運営 - ボランティアセンターの位置付けの明確化、災害ボランティア支援体制の整備
- 広報 - 災害時の広報計画の策定、広報担当班の育成
- その他 - 地域防災力の強化

2. 防災キーワード

初動対応

情報の収集と伝達、市の迅速な初動対応、地域における初動対応

早期避難

迅速な避難情報の発令、自主避難など安全な避難行動を行うための啓発、災害時要援護者への支援

平常時の備え

予期せぬ豪雨により突然起こる土砂災害や浸水に備える平常時における対策

3. 防災対策のポイント

情報の伝達・早期避難の実現・災害に対する平常時からの活動

4. 取り組み

迅速な初動体制の確立

- ・平常時からの訓練や防災教育の計画的な実施
- ・気象情報への的確な対応体制の確立
- ・迅速な災害対応が出来る体制の整備
(災害対策本部の充実等)
- ・多様な手段による迅速な情報の収集と確実な情報伝達の実施

早期避難の実現 へ向けた取り組み

- ・的確な避難情報の発令
- ・気象情報など避難に関する有効な情報の収集と情報の活用
- ・避難所計画の見直し及び避難所施設の整備
- ・災害の危険性や避難情報発令の意味、その重要性の啓発などによる住民意識の改革
- ・早期の情報伝達など要援護者避難への支援

防災意識の高揚と 自主防災組織の普及

- ・防災意識の啓発
- ・ハザードマップを活用した地域の危険度の周知と住民理解の促進
- ・自主防災組織化の促進及び活動支援
- ・自主防災リーダーなどの人材育成支援
- ・官民一体となった防災力の向上